



島唄保存・伝承活動等取組事例

市 町 村 名	奄美市（笠利町）
分 類 (該当に○)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保存・伝承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 2 後継者育成 <input type="checkbox"/> 3 地域振興 <input type="checkbox"/> 4 観光振興 <input type="checkbox"/> 5 その他（ ）
実施団体の概要	【名 称】大笠利わらぶえ島唄クラブ 【代 表 者】山田 逸郎 【所 在 地】奄美市笠利町笠利399 【メンバー】現在16名（小学校1年生～中学校3年生）
取組の背景	大笠利地区は、島唄や八月踊が盛んな地域であり、子どもたちにもっと島唄を聞く機会を与え、島唄を好きになってもらいたいと設立したのが当初の目的である。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笠利集落に伝わる島唄や八月踊りを教えるため、集落の唄者が中心となって、昭和59年に同好会が結成された。平成2年に「大笠利わらぶえ島唄クラブ」として活動。 ・ 毎週土曜日20時～22時 旧笠利幼稚園跡地で練習を行っている。 ・ 年1回定期発表会を開催。集落の行事だけでなく市内の各種イベントにも多数出演している。 ・ 保護者が中心となって、ブログを立ち上げている。 (http://mama.amamin.jp/)
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島唄や八月踊りなど、大笠利集落における伝統文化の重要な担い手が育成されている。 ・ 島唄を学ぶことで、島唄が好きになってくれる子が多く育ってきた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが減っており、今後の活動継続が危ぶまれる。 ・ せっかく育った継承者たちも、一定の年齢に達すると、集落外・島外に出て行ってしまう。 ・ 日常生活で島口（方言）が使われないため、唄の内容をちゃんと理解して歌うことが難しい。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唄だけでなく、月1回は島口（方言）を親子で学び、日常生活でも島口を取り入れていく。 ・ 島唄・文化・島のことが好きな子を育てるという初心を忘れずに活動していく。

島唄保存・伝承活動等取組事例

市 町 村 名	奄美市（住用町）
分 類 (該当に○)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保存・伝承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 2 後継者育成 <input type="checkbox"/> 3 地域振興 <input type="checkbox"/> 4 観光振興 <input type="checkbox"/> 5 その他（ ）
実施団体の概要	【名 称】見里文化伝承部会 【代 表 者】師玉 敏司 【所 在 地】奄美市住用町見里 【メンバー】15名（見里集落民）
取組の背景	見里地区は、島唄や八月踊りが盛んな地域であるが、核家族化の影響もあり、子供たちは、幼少期・生育期に島唄を聞く機会や八月踊りに参加する機会が少なくなっており、島唄や八月踊りの継承が危ぶまれている。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見里集落に伝わる島唄や八月踊りの継承者を育成（特に集落の唄者育成）するために集落の唄者が中心となって、平成18年「文化伝統保存会」が結成された。 ・ 毎週第2火曜日に午後8時から集落公民館で練習を行っている。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島唄や八月踊りなど、見里集落における伝統文化の重要な担い手が育成されている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが減っており、今後の活動継続が危ぶまれる。 ・ せっかく育った継承者も、一定の年齢に達すると進学や就職により集落を離れ、参加者が少なくなる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島唄伝承部会を中心に集落で呼びかけ、子ども会・青壮年団・婦人会等にも呼びかけたい。 ・ 島唄は女性・男性に分かれて成されるが、男性唄者が少ない。

島唄保存・伝承活動等取組事例

市 町 村 名	奄美市（名瀬）		
分 類 (該当に○)	1 保存・伝承活動	2 後継者育成	3 地域振興
	4 観光振興	5 その他（	）
実施団体の概要	<p>【名 称】奄美八・六会 【設 立】昭和31年 【代 表 者】奥山 恒満 【所 在 地】奄美市名瀬小湊西仲勝 【メンバー】約40人（25代～70代で構成）</p>		
取組の背景	<p>古くから奄美に伝わる「八月踊り」や「六調」の伝統文化を通して、地域興しと観光振興に役立てるを目的に昭和31年に会を設立。 代表者の出身地である西仲勝集落住民を中心に古典的な振付けを大事にしながらも、創作踊りや新しい唄を考案し、観る側や参加する側が共に楽しめる伝統文化を開拓しつつ、地域振興を図る活動を行っている。</p>		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島内各地や県外及び海外のイベントにも参加し、奄美の伝統芸能のPR活動を展開している。 ・ 奄美市内の観光ホテルで観光客に奄美の伝統芸能を披露し、観光PRに努めている。 ・ メンバーは、奄美市の古見方地区25代から70代の住民を中心に活動している。 ・ 従来の奄美に伝わる八月踊りは、円を描いて踊られており、観客に背を向けた状態であったが、踊りの途中に外側を向く手踊りを加えるなど、創作振付を施したことで舞台映えするのが特徴である。 ・ 踊りや唄を創作し、観客に手踊りの美しさを楽しませる要素を取り入れている。（「ようかな節」「にわとり卵」「嫁取り唄」など） 		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の島唄や八月踊りなどを創作することで観客に見せて楽しませる要素を加え、新しい形の伝統芸能となっている。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に伴い、中堅青壮年の参加が少ない。 		
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで同様、奄美の手踊り（八月踊り・六調）や伝統文化を中心に奄美のPR活動に努める。 	<p>【運動会で一緒に踊る様子】</p>	

島唄保存・伝承活動等取組事例

市 町 村 名	奄美市（名瀬）
分 類 (該当に○)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保存・伝承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 2 後継者育成 <input type="checkbox"/> 3 地域振興 <input type="checkbox"/> 4 観光振興 <input type="checkbox"/> 5 その他（ ）
実施団体の概要	【名 称】 奄美市立芦花部小中学校 【代表者名】 校長 大迫 輝久 【所 在 地】 奄美市名瀬大字芦花部585 【人 数】 小学生21名，中学生15名
取組の背景	<p>集落内で島唄の唄者や演者が減っていくことに対する地域の危機感や，大島地区教育事務所が提唱している「島唄・島口・美ら島運動」に則って，学校でもできることはないかをとということで始められた。</p>
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の時間や昼休み時間に島唄の練習をして，市音楽発表会や地域の敬老会で島唄の発表をしている。 ・ 学習発表会，立志式，家庭教育学級等，機会をとらえ唄者や島唄に取り組む人の講演や演奏会を企画・実施している。 ・ 毎年，運動会で八月踊りを演技種目に取り入れて，地域の老人会や郷友会の方に指導を受けて，運動会当日も児童生徒・校区の方全員で踊っている。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島唄に対しては，慣れ親しむ活動ができています。 ・ 敬老会での発表に向けて，昼休みや放課後等に生徒が自ら三味線の練習をする姿が見られる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者及び練習時間の確保が難しい。 ・ 歌える曲や，三味線で弾ける曲を増やす。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の取組や活動の継続をさせる。

島唄保存・伝承活動等取組事例

市 町 村 名	奄美市（名瀬）		
分 類 （該当に○）	1 保存・伝承活動	2 後継者育成	3 地域振興
	4 観光振興	5 その他（	）
実施団体の概要	<p>【名 称】奄美市立伊津部小学校 さざ波バンド</p> <p>【代 表 者】校長 渡島 正広</p> <p>【所 在 地】奄美市名瀬小浜町14-1</p> <p>【メンバー】36名（小学2年生～6年生）</p>		
取組の背景	<ul style="list-style-type: none"> 昭和36年に弦楽器やアコーディオンを中心とした「器楽演奏隊」として結成したが、昭和61年、児童に奄美の伝統文化の良さを気付かせることを目的に、奄美の伝統楽器である三味線や太鼓（チヂン、サンバラ）の他、ホラ貝等も取り入れ、再結成を行った。 		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 再結成当時の指導者が、奄美の伝統的な踊りや島唄の「糸繰り節」を取り入れたオリジナル曲「島のひびき」を作曲し、以来、この曲の演奏を中心に活動を行ってきた。 毎週火・木・金曜日の放課後に、音楽室を中心に練習を実施（夏季休業中には、校庭で隊形の練習も行っている。）。 本校の特色ある教育活動として学校行事等で演奏するほか、年1回の定期演奏会や県合奏祭、市主催の「あまみ祭り」、地区や県主催の教育関係の会に多数出演している。 県合奏祭特別賞、MBC器楽合奏コンクール金賞・県知事賞受賞（平成4年） 		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学校行事等で演奏することを通して、教育活動をより効果的に推進することができるとともに、所属しているメンバーだけでなく、全校児童が奄美の伝統的な文化の良さに気付くことができる。 本校の特色ある教育活動として、保護者や地域の方々をはじめ、各報道機関や県の音楽関係者からも広く認知されている。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な楽器を使用するため、楽器の維持管理や新たに購入する際に費用がかかる。 児童数が減少傾向にあるため、バンドに入る児童の数も少なくなっている。他の児童に興味や関心をもってもらえるよう、演奏等を通して広報や勧誘活動に努めている。 		
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 今後も演奏のレベル向上を目指しながら、学校行事の他、市や県の行事、地域おこしの演奏会等に出演していく。 		

